

科研バックエンド問題研究会
「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」
第12回TF研究会 議事録

日時：2019年1月15日（火）18:00～20:30
会場：早稲田大学早稲田キャンパス 19号館 713 会議室
記録：野崎悠+吉田朗

出席者(敬称略)：

研究会メンバー

松岡俊二 (研究代表)	早稲田大学国際学術院 (アジア太平洋研究科)・教授
勝田正文	早稲田大学理工学術院 (環境・エネルギー研究科)・教授
師岡慎一	早稲田大学理工学術院 (先進理工学研究科)・特任教授
松本礼史	日本大学生物資源科学部・教授
黒川哲志	早稲田大学社会科学総合学術院 (社会科学研究科)・教授

研究協力者

竹内真司	日本大学文理学部・教授
------	-------------

事務局

李 洸昊	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程
吉田 朗	早稲田大学社会科学研究科・博士後期課程
CHOI Yunhee	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程
野崎 悠	早稲田大学先進理工学研究科・修士課程
中村 達俊	早稲田大学創造理工学研究科・修士課程

オブザーバー

岡田往子	東京都市大学工学部原子力研究所・准教授
山田美香	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程

報告 1. 山田・李「NUMO-MRI プロジェクトについて」

- ・プロジェクトの準備状況
- ・先行研究の調査状況

討論

山田: 市民参加者については、東京の18-29歳女性と福島県の18-29歳男女・30-50歳女性が未定である。第一回の事前説明会を3/16か3/17に実施予定とし、専門家については、地層処分の肯定派にJAEAの笹尾様、懐疑派に神奈川工科大学の藤村先生、中立派に東京電機大学の寿楽先生が確定した。2月の下旬に、3名の方を交えて、事前打ち合わせを実施予定である。

松岡: 2/18の研究会を下旬にずらして専門家との打ち合わせと合わせる必要がある。2/18夕方と2/28夕方と3/1夕方の3候補の中から専門家の方と予定を調整して決定する。東京と福島県の未定参加者は松岡が手配する。また、本PJは中部大学の中村らによる2016、2017年度の研究、及び、八木らの2007、2008年度の研究を先行研究として、分析を実施する。

山田: 中村らは市民対話イベント「高レベル放射性廃棄物とわたしたち」という対話イベントを実施しているが、我々の第三回の内容と趣旨が似ている。基本的な進め方は、市民間の対話を中心にを行い助けが必要な時にファシリテーターと専門家が助言を行うというものであり、初日の2時間半はビデオを視聴した。初日に専門家の質疑が当初予定したより大量に出たため、専門家の重要性が確認された。

中村らの研究から参考となるのは、専門家から提供する「情報量・情報の分かりやすさ・情報の範囲の枠組み」

をしっかりと整えることである。また、対話の作法としてどうイベントを進めていくかも重要である。事前資料としては、エネ庁・NUMO が出版した資料、学術会議が出版した資料を送付している。我々も市民に事前に資料を送る必要があるのか、送るとしたら何を送るのが課題である。我々のPJは“中立派”も含めた3名の専門家で実施することが独自性にあたる。アンケートに関しては、本研究での要因分析である4つの受容性からどうアンケートを設計するか、この点も課題である

松岡: 全体的な制度設計・アジェンダ設計をどうするかが最重要となる。また、事前資料配布は最低限にする。市民対話会の趣旨説明をする程度にする。中村グループの場合は80枚近く、学術会議の場合は40枚近くあった。これは市民にとってはハードルが高い。また対話中は、専門家は表に出ないで行う。さらに、事前アンケートは10～15分程度でできる簡潔なものにする。事後のインタビューが重要となる。前と後でどう考えが変わったのかの想定できるパターンを洗い上げる。さらに、誰がどれだけインタビューをするかもポイントである。

師岡: 専門家の話は短い方が良い。50分を3人行うのは集中力が持たない。

松岡: 30分にする。

松本: 事後アンケートは3人の専門家の後にやるのではなく、1人ずつで行う方が良いのではないかと。

松岡: そうすると研究の趣旨が変わってしまう。3人の専門家の意見を聞いた上で変化した考えを得たい。

黒川: 私も1人ずつで行うのが良いと思う。論点ごとに5分で説明させるのはどうか。

勝田: そうしたら、座談会形式になるが。

松岡: 想定は、異なる3人の専門家を聞いて意見が変わるかであり、1人1人で意見が変わるかではない。研究計画が変わってしまう気がする。順番効果が見たいのではなく、独立に3人の話を聞いて、聞いた前後での比較を見ることが研究の趣旨である。そうすると、見た目や話芸で信頼が変わってしまう。

松本: プレゼン力、信頼できるかなどのパーソナリティに関わる要素のみ各自の説明の後に聞いておいて、後程、地層処分への意見変更への影響においてその要素を取り除けるように解析を行えばいいのではないかと。

竹内: 事前説明会でパーソナリティに左右されないように注意しておく必要がある。プレゼン力の良し悪しや講師の人間性によって意見は左右されそうな気がする。

松岡: 分かりやすさに依存することはしたくない。話の中身が重要である。現在、設定されている研究期間で全てをこなすのは難しい。

師岡: 地層処分に対する意見を聞き、専門化の話を聞いた後、意見の変化を見るところのことであるか。パーソナリティ効果を前提として、それを除外できるアンケートを作ってはどうか

松本: ご質問の点はその通りで、その効果を除外する為に、1人終わったらアンケートをしたらと提案した

李: 先行研究としての八木先生のイベントについて述べる。対話フォーラムと原子力に関するオープンフォーラムの2つを行った。対話フォーラムでは、2年に渡り15回の対話会を行ったが、そこから多数対話を行うことの重要性を示した。オープンフォーラムでは、参加者となる市民にテーマを決めてもらっている点が我々のPJに参考になる。また、我々とは違って原子力技術の専門家もいた。ここから分かることは、専門家の専門分野の決定方法を考える必要がある。

また、プログラムの公正性においてファシリテーターが重要であることも分かった。他の検討事項は、各回を経る毎にどのように専門家への信頼が変わるかも検討する必要があるのか、この際、その「信頼」はどう定義するのか、文脈モデルと社会的受容性モデルをどのように区分・定義するのか、などが挙げられる。

松岡: オープンフォーラムについて「参加要件を設けずに事前申し込みがあった人」とは、こういった地域の方々が参加したのか、その分布によって結論は変わってくる。

李: 分布は不明。希望者をすべて受け入れた。

松岡: 3月には専門家との事前打ち合わせがあるので、それまでに全体設計を詰めなくてはならない。

松岡: 今回の議論をまとめたい。今回変更する点は3点ある。1点目は、専門家の説明は一人30分に変更することである。2点目は、専門家が一人説明を終える毎に、個人的な説明力を聞く簡単なアンケートを行う点である。最後に、説明後アンケートと聞き取り調査の間には集計のための休憩を設ける点である。また、6人のインタビューでそれぞれのクオリティを統一したい。

松本: 意見が変わった人にはこのインタビュアー、意見が変わらなかった人にはこのインタビュアーが担当とした方が設計上良いのではないか。

松岡: 記録の取り方やデータの残し方、管理の仕方、結果の出し方、分析の仕方も含めて、全体設計を山田さんをお願いしたい。

黒川: 議論中に評価をリモコンで操作する装置があれば、それを使えばタイムリーに何が信頼などの要素に繋がるかを解析できるのではないか。

松岡: アイディアは良いが、今回の趣旨には合わないので、来年に検討しましょう。

報告 2. 吉田「第 8 回原子力政策・福島復興シンポジウムについて」

- ・シンポジウムの事前準備状況に関して
- ・スライド作成等の注意点に関して
- ・タイムスケジュールに関して

討論

松岡: 長い目でバックエンド問題を考えたいため、未来世代を見据えた趣旨にした。どのように未来世代に福島の教訓を伝えていくのかを考えたい。アーカイブ拠点、1F、復興記念公園を広島市の平和公園、資料館、原爆ドームのように1体のPJにすることに関して本シンポジウムで議論したい。第一部は、社会的合意形成が困難な課題について検討する。報告1で核変換に関する議論を藤田先生を中心に行い、報告2で社会的受容性を扱う。第二部は、福島復興についてで、報告1はTBSディレクターの桶田さんと8年後と20年後の福島を考え、報告2はローカルアクティビストの小松さんと文化と復興について議論を行う。今週中に、報告のタイトルを確定する。

報告 3. Yunhee「第 2 回欧州調査計画(フランス、イギリス)に関して」

- ・調査概要について
- ・調査スケジュールについて

討論

松岡: フランス調査に関して、アンドラは2020年に地層処分を着工するつもりだが、なかなか合意が得られない状況にある。今年2019年1月から振り出しに戻ってどう高レベル放射性廃棄物を処理するのが良いのかをテーマに国民的討論を行う予定だが、その動きが遅いのでその確認が必要である。フランスの現在の状況を現地にて把握する。イギリス調査に関して、セラフィールドでの地層処分に関して、コーブランドやアラデーの2つの市では可決されたが、カンブリア州が否決している状況にある。州各所で利害関係が全く違うため、州全体として否決されている。イギリスも国民的議論を行って来てはいるが、なかなか社会的合意にいきついていない状況にある。その現状を把握する。

師岡:イギリスに行くなら、日立の原子力プラントについてイギリスの重役の方からどう考えているかを聞いていただきたい。

今後の予定

2019年

2月1日(金)～15日(金)	第2回欧州出張(フランス、英国)
3月1日(金)	第13回TF研究会(専門家事前打合せ)
3月7日(木)	第8回原子力政策・福島復興シンポジウム
3月16日(土) or 17日(日) <予>	市民アゴラ事前説明会
3月21日(木) or 23日(土) <予>	第1回HLW市民アゴラ
3月31日(日)	プロジェクトの終了

以上